

国際結婚をした夫同士の連携 「糸魚川ダンの会」の結成

糸魚川ダンの会会長 鷺澤 茂雄

はじめに

謝・カムサハムニダ・サラマップ・サン
キユウ・ありがとう・実に様々な表現だが、
いずれも感謝を表す言葉である。これらの
言葉を常用としている母国に生活している
人々には、何の問題もなく、コミュニケー
ションがとれている。

私たち日本人が海外旅行に出かける時は、
旅行会社の添乗員が同行し、現地の案内人
のガイドで何の問題もなく旅行を楽しむこ
とができる。ところが外国で生活するとな
ると話は全く違う。世界のグローバル化は
何も経済活動だけではなく、留学、ス
ポーツ、結婚、移住等、今では当然のこと
となっている。

ところで、外国人から見た日本人観はど
うかという、優柔不断（イエス・ノーをは
っきり言えない）一人では行動できない民族、

ファジーな宗教観、お金持ち（かつてはメガ
ネ、カメラ、エコノミックアニマル）と評価
されているようである。私が結婚前にフィ
リピンへ渡航した時に、単独で行こうと考
えたのは、これらの評価を少し変えてやろ
うとの思いからである。しかし言葉の壁は意
外に厚かったことを振り返ると、今でも冷
や汗が流れる。こんなことがあった。現地の
空港で搭乗手続きの順番待ちの際、場内ア
ナウンスがあり、「本日台風のため、日本の
成田空港は封鎖中です。したがって成田空
港行きのフライトは全便キャンセルとなりま
した。ピンポンパンボン…」運悪く日本語
を話せるスタッフがなかったために、翌日
の手続きができず困惑しながらトイレで用
を足すと、親切にも手拭きを渡されたので、
地獄で仏に会ったような思いで礼を言っ
た。「チッププリーズ…」
正にノーと言えない日本人を演じてしまっ
た。

さて、日本では近年国際結婚をするカッ
ブルが増えており、全国的な傾向でもある
ようだ。当糸魚川市でも例外ではなく、ま
た出身国も多様化しており、こうしたこと
も理由の一つであることが分かるように街角
やショッピングセンターなどで日本語以外
の会話を耳にすることも珍しいことではな
く、なっている。

ダンの会の結成について

国際結婚は、日本人同士の結婚と違い諸
手続きが多く、婚姻後日本で生活するにも
外国人登録や、在留資格、在留期間更新、
出国の場合の再入国許可など、すべて日本
の法律が適用され、証明書類などは翻訳の
必要もある。また、外国人配偶者のパスポ
ート等に関する手続き等は本国又は在日本
大使館で行わなくては行けない。

また言葉や文化の違いなどによって外国人の配偶者たちは日常生活においても大変苦勞することが多い。これらは夫婦間で協力しあつて、乗り越えていかなければいけない問題であるが、外国人配偶者が地域になじんで暮らしていくには、特に日本人の夫の力が必要であると感じていた。

例えば、外国人配偶者が日本語教室や子どもたちの幼稚園・保育園・学校などの行事、地域の行事などに参加することも、日本人の夫の協力が必要である。

外国人配偶者同士は、日本語教室などでコミュニケーションがとれており情報交換ができていたが、夫たちは横のつながりがなく、それぞれの家庭で妻からの情報や友人同士の交際範囲しか状況把握ができない状態であった。二〇〇六年冬頃ボランティア団体「日本語ネットワーク」の役員の方から「外国人の配偶者を持つ『夫の会』を組織してみませんか」とのアドバイスをいただき、関係者数人で数回の会合を行った。その後、国際結婚をした二〇〇人の賛同を得て二〇〇七年二月に「糸魚川ダンの会」設立総会を開催して発足した。名称の由来は「旦那・だんつく・ダンディ」をもじってつけたものである。

会の規約について、目的としては、外国人配偶者を持つ夫たちが連絡を密にし相互の親睦を図ること、配偶者が異なる文化・習慣に対し融和を図れるよう、地域・市民と交流を行うことである。

目的達成のための事業としては、①家族との連絡と親睦 ②国際化を求める市民への異文化に対する理解と交流の懸け橋を行う。会員の条件は、糸魚川周辺地域に在住の、外国人配偶者を持つ夫及びその関係者を中心として、国際社会・国際交流に関心がある人となっている。

事業について

春には、桜の花見会を行い各家庭で作った手料理を持ち寄り、家族一緒に親睦を深め、お互いの理解のために、自己紹介を行ったり外国でのエピソードを話し合うなど、中国やフィリピン等のお国柄の違いに話の花が咲き、和やかに交流を行っている。ま

た、他地域のグループとの交流では、昨年は隣の上越市のダンの会との合同花見会を行った。夜桜で有名な高田公園での交流は大いに盛り上がり、総勢五〇名程のパーティーは、他の花見客を圧倒するほどの賑わいであった。

夏は、糸魚川市の花火大会に合わせ海浜公園でバーベキュー大会を行い、この時は仲間の料理人が大いに腕をふるい、子どもたちにも大評判で、余興では飛び入りのフィリピンダンスが日本海の夕日に負けず南国の踊りを添えた。

十二月には糸魚川国際交流協会と共催でクリスマスパーティーを行い、この時は外国人配偶者が一番張りきって会を盛り上げ、カラオケ・ダンス・プレゼント交換とあつという間に時が過ぎる。この会には日本語教



↑「花見」の様子



↑「納涼会」の様子



↑2007年 クリスマス会の様子



↑ダンの会パワーアップ事業「法律講座」の様子

室でお世話になっている先生方も参加され、配偶者の日本語でのあいさつや、スピーチコンテストの披露などの内容で毎年趣向を変えて行っている。

これまでダンの会の活動はこのような交流事業をメインとしてきたが、外国人が日本で生活する上で必要になる法律などの知識を深めるような勉強会を開催してはどうかと糸魚川市の担当者から話があり、今年度初めての取組で糸魚川市の協力を得て、ダンの会「パワーアップ事業」「外国人に関わる身近な法律講座」を開催した。ただ、一口に法律講座といっても範囲が広いため、会

員から聞きたい内容をリクエストしてもらい、市の担当者や打合せをした上で在留、帰化の関係や相続などについて講師に依頼した。講師には国際弁護士をお招きし、日頃の悩みや将来の不安等に関して親切に教えていただいた。外国人が日本で生活する際に不安に思うことや戸惑う事柄、それと同時に日本人にとって将来の不安なこと、特に相続関係をはじめ様々な質問が相次ぎ盛況のうちに終わることができた。今後このような会員のニーズに応えられる取組を行いたいと思う。

外国人配偶者の現状について

外国人配偶者が日本において、不自由なく快適にいきいきと生活できるよう、糸魚川国際交流協会による日本語教室（初級・上級）が行われている。

また市が発行した外国人生活ガイドブックや救命マニュアルの翻訳作業の手伝い（中国語・タガログ語・韓国語・英語等）を行ったり、糸魚川ジオパーク観光ガイド研修（外国語対応）学習会への参加等積極的に取り組んでいる。

家庭生活においては、日常生活に不自由なく主婦、母親、妻をこなしており、テレビから会話の練習や漢字を学んでいるようである。

大多数の人はそれぞれ国際自動車免許証

から日本国の自動車免許を取得し、買い物、子どもや老人の送迎等に自由に車を運転していて、時には遠方のショッピングセンターにまで出かけているようである。

外国人として言葉の壁や制度の壁はあるが、このように積極的に快適に市民生活を送れるようになるためには、家庭特に夫の協力が必要であり、その意味ではダンの会を結成し夫同士の連携、交流の場ができたことはとても有意義なことであると思う。

おわりに

現在二九名の会員で活動をしているが、今後さらに仲間が増えることも予想される。これから国際結婚をする予定の方が、気楽に相談できるような機会をつくったり、今回の法律講座のような様々な事業を企画したいと考えている。

ダンの会の結成からわずか三年しかたっていないが、これからもダンの会の活動が目的に沿って継続ができるように、会員と連携をとっていききたいと思う。今後さらに発展できればという思いはもちろんあるが、各家族が仲良く生活でき、子どもたちが逞しく成長し、自分たちの国際結婚が正しかったと胸を張って人生を振り返ることができるよう、日々の生活の安穩と関係家族の末長い幸せを願ってやまない。